

小学校高学年におけるエゴグラム S H E の 活用に関する検討

— 学校生活満足度及び標準学力調査との相関分析を通して —

高橋 昭三

（交流分析士インストラクター）

要 約

現在の義務教育における大きな課題は、不登校及び学校不適応児童への対応と学力向上の2つである。本研究は、日本交流分析協会附属 T A 学校教育心の開発研究所（以後、T 研究所と記述）が開発したエゴグラム S H E（T 研究所、2015）が、今後広く学校現場に活用されるために「学校生活満足度検査（Q-U 心理検査）」と「標準学力調査」との相関関係を分析することを通じて、エゴグラム S H E の有効性を明らかにしようとするものである。結果は、エゴグラム S H E から得られた自我状態の傾向と学校生活での満足度（承認得点・被侵害得点）と学力（国語・算数観点別評価）には、一定の相関関係があることが分かった。特に、不登校・不適応対策としては、児童の A C 尺度に注目しながら C P 尺度の「自己主張力」を高める指導が有効ではないかということと、学力向上では、児童全体の A 尺度と女子の F C 尺度・A C 尺度の改善が有効ではないかという2つの結果が得られた。

キーワード

エゴグラム S H E，学校生活満足度検査，標準学力調査，小学校高学年の自我状態の特徴
承認得点と自我状態，被侵害得点と自我状態，国語，算数，観点別学力と自我状態

1. 目的

長年、小中学校に勤務し、児童生徒の不登校対策と学力向上対策にかかわってきた。その中で、交流分析理論の有効性、特にエゴグラム S H E について開発当初から興味を持ち実践してきた。その理由としてエゴグラム S H E は、回答者自身がある場で自分の心の状態を学校と家庭と分けて自己分析し、他者とのかわりの方向性まで理解することができるからである。また、小学校高学年でのエゴグラム S H E に関する先行研究が少ないばかりでなく、不登校・不適応対策及び学力との相関関係について言及

しているものが少ない現状であり本研究は先行的研究としての意義があると考えられる。

具体的には、以下の3点について分析することとした。

2. 分析内容

(1) 筆者の標本93名の小学校高学年の自我状態の特徴を T 研究所標準化の資料と比較し、その特徴を明らかにすること。

(2) 学校生活満足度検査（Q-U 心理検査）とエゴグラム S H E から得られる小学校高学年の自我状

態との相関を明らかにすることにより、承認得点・被侵害得点と自我状態の間には、どのような関係があるか分析すること。

(3) 小学校高学年の国語・算数の標準学力調査の結果とエゴグラムSHEから得られる自我状態には、どのような関係があるか分析すること。

以上の3点の分析をとおして、エゴグラムSHEが不登校・不適応対策と学力向上対策にとって有効であるかどうかを分析するものである。

3. 方法

(1) 調査対象

東北地方公立小学校児童

5年 男子20名 女子28名 計48名

6年 男子21名 女子24名 計45名

合計 男子41名 女子52名 計93名

(2) 調査方法

① エゴグラムSHEについて

学級活動と道徳の時間2時間を使い、「心の成長と自分の個性を知る」をテーマにT研究所が開発し

たエゴグラムSHEとその授業展開例を用いて、5年生2クラス、6年生2クラス全員に2014年6月末日に実施した。

また、調査対象児童の標本とT研究所資料とのデータ比較のため、T研究所より標準化に使用した419名のデータの提供を受けて比較を実施した。

② 学級生活満足度調査(Q-U心理検査)について

小中学校で実施している河村(2006)「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U心理検査」を2014年7月初旬に実施した。この調査は、学級生活のなかでの承認得点(仲間から認められているかどうか)と被侵害得点(いじめや無視されていないか)が算出できるものである。実施にあたっては、全校一斉に毎年度実施しているものであり、短学活時において各担任が実施した。この結果を用いてエゴグラムSHEとの相関を分析した。

③ 標準学力調査について

11月までの学習内容について、学習指導要領に準拠した国語と算数の定着度調査を12月初旬に実施している東京書籍発行「評価テスト標準学力調査問題」を使用した。この結果を用いて国語は、国語

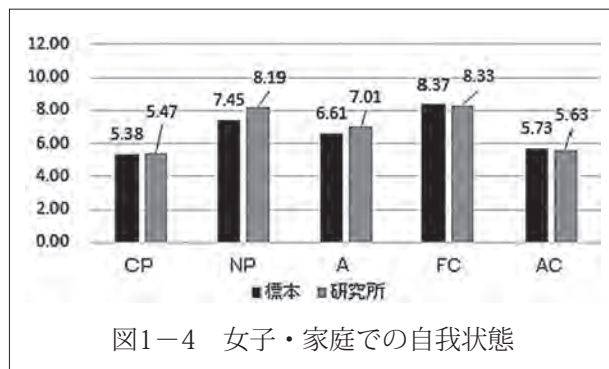
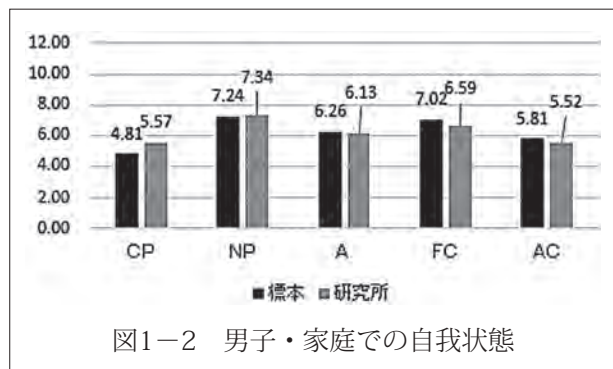
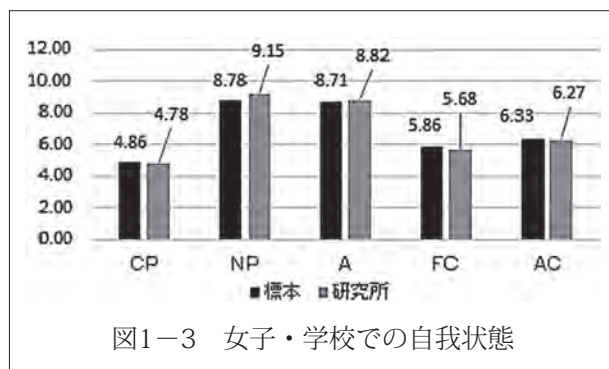
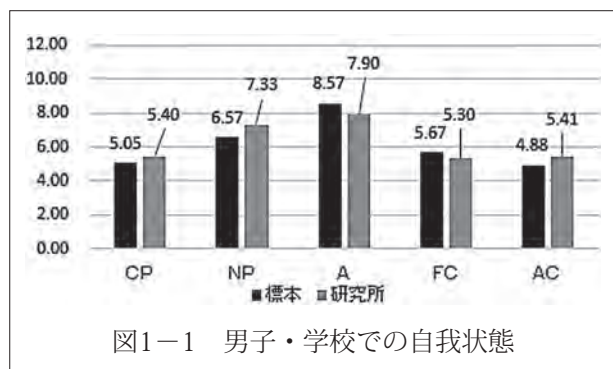


図1-1, 2, 3, 4 標本とT研究所資料比較

への関心・意欲・態度，話す・聞く能力，書く能力，読む能力，言語についての知識・理解・技能の5観点。算数は，算数への関心・意欲・態度，数学的な考え方，数量や図形についての技能，数量や図形についての知識・理解の4観点について，自我状態との相関関係について分析した。

4. 結果

(1) 対象児のエゴグラムSHE (N=93) とT研究所資料との比較 (N=419)

標本とT研究所資料の自我状態には大きな違いは見られず，どちらも学校では男子はA尺度，女子はNP尺度が高い傾向が見られ，家庭では男子はNP尺度，女子はFC尺度が高い傾向が見られる。

(2) 対象児童のエゴグラムSHEの分析結果

T研究所でも小学校高学年の標準化が進んでいない現状を踏まえ，標本となる対象児童のエゴグラム

SHEから小学校高学年の特徴分析を試みた結果は以下のとおりであった。

① エゴグラムの各機能別の平均状況 (満点は12点)

男子は学校でA尺度の機能をよく使い，家庭ではNP尺度とFC尺度の機能をよく使っている傾向が見られた。女子は，学校ではNP尺度とA尺度の機能をよく使っており，家庭では，FC尺度の機能をよく使っている傾向がみられた。

さらに，男女別の傾向をより明確にするために対象児童のピークエゴグラムとボトムエゴグラムを求めた結果は，以下のおとりである。

② ピークエゴグラムとボトムエゴグラム

男子は，「学校A－家庭NP」優位型で，学校・家庭ともにCP尺度・AC尺度が使われていない傾向がある。女子は，「学校A－家庭FC」優位型で，学校では，CP尺度・FC尺度，家庭ではCP尺度・AC尺度が使われていない傾向にあるといえる。

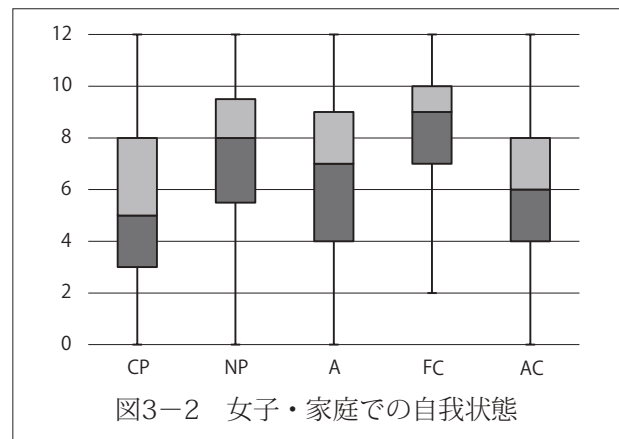
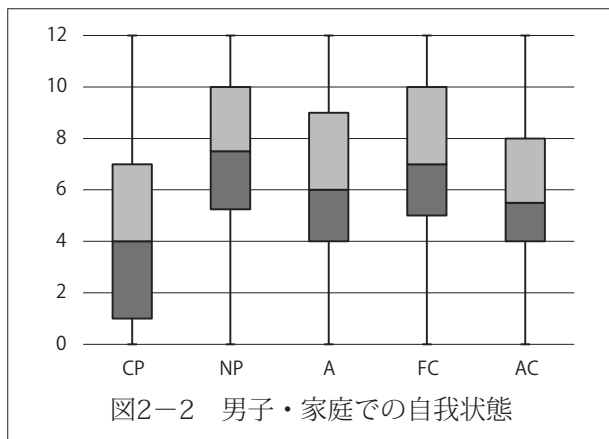
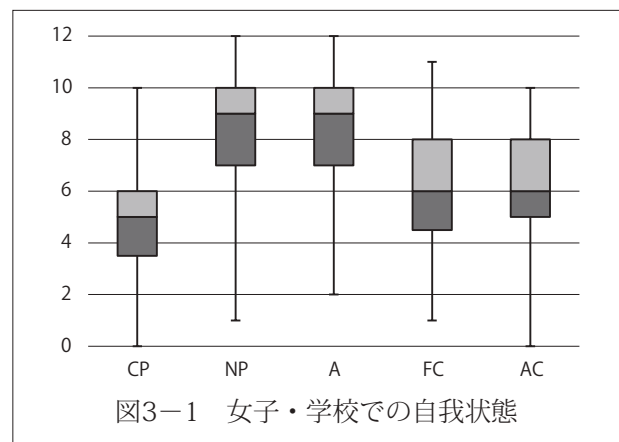
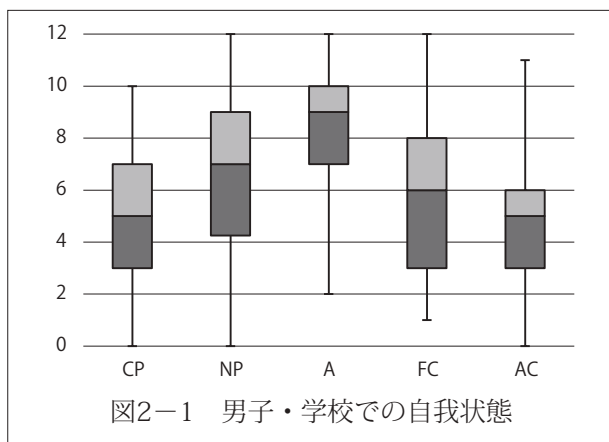


図2-1, 2 男子の学校・家庭での自我状態箱ひげ図

図3-1, 2 女子の学校・家庭での自我状態箱ひげ図

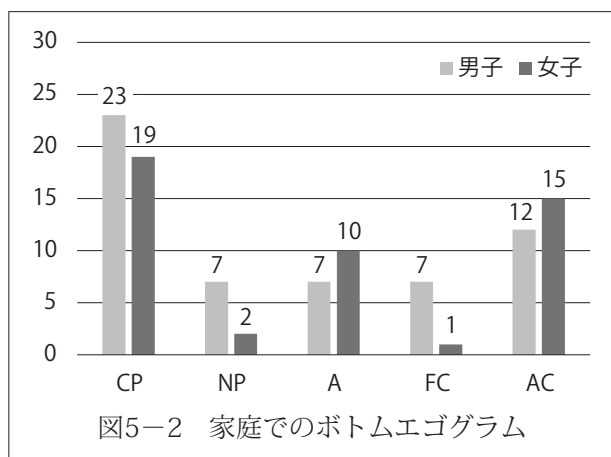
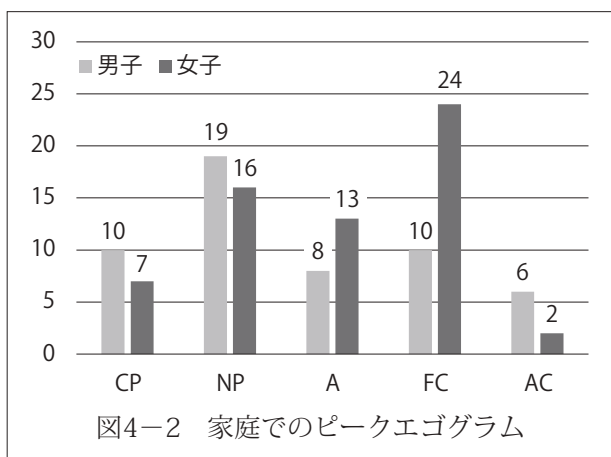
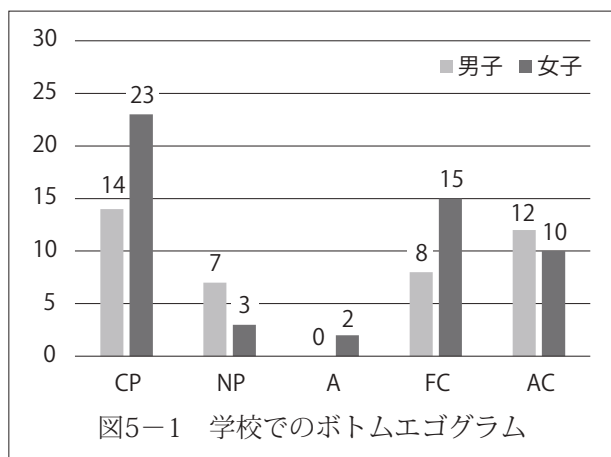
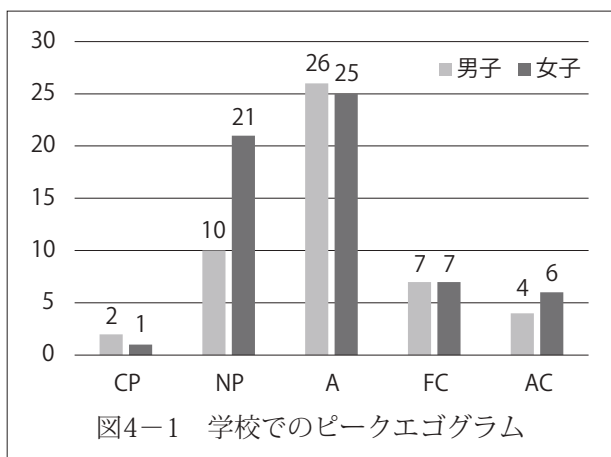


図4-1, 2 学校・家庭でのピークエゴグラム

図5-1, 2 学校・家庭でのボトムエゴグラム

(3) 学級生活満足度調査 (Q-U心理検査) との 相関について

① 「Q-U心理検査」の概要

学級集団や教師の指導のために児童・生徒の学級生活の適応状況を把握するものである。クラスの仲間に承認されているか、いじめや冷やかしの侵害行為を受けていないかを児童自ら質問紙に回答するものである。6つの質問事項から4段階選択し承認得点と被侵害得点を算出し、学級生活満足群・非承認群・侵害行為認知群・学級生活不満足群の4群に分類する。その結果にもとづき、学級担任等が指導・支援体制を整えるものである。日本教育カウンセリング協会の会員が多く使用し全国で多くの児童が受けている心理検査である。

*質問紙の例は、河村(2006)参照のこと

② 対象児童の「Q-U心理検査」の結果

表1 承認群・非承認群の割合 (N=93)

	承認群(%)	非承認群(%)
全体	73.1	26.9
男子	65.9	34.1
女子	78.8	21.2

表2 満足群・侵害行為認知群の割合 (N=93)

	満足群(%)	侵害行為認知群(%)
全体	80.6	19.4
男子	73.2	26.8
女子	86.5	13.5

承認群は、特に女子が高い傾向にあり、侵害行為や疎外感を感じている児童は、男子に多い傾向が見られる。

③ 「Q-U心理検査」と自我状態の相関について

ピアソンの積率相関係数を利用し、有意水準0.05での相関を分析した。対象人数により相関関係の限界値も違うことから表の右側に限界値を示した。

表3 承認得点と自我状態の相関関係

承認	学校							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	0.042	0.347	0.230	0.090	0.036	0.260	93	0.205	
全体									
男子	0.167	0.361	0.209	0.359	0.095	0.380	41	0.305	
女子	-0.073	0.242	0.248	-0.215	-0.124	0.037	52	0.272	
承認	家庭							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	計			
自我	-0.091	0.067	0.163	0.250	-0.210	0.057	93	0.205	
全体									
男子	-0.027	0.006	0.060	0.246	-0.189	0.020	41	0.305	
女子	-0.206	0.125	0.237	0.184	-0.222	0.060	52	0.272	

表4 被侵害得点と自我状態の相関関係

侵害	学校							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	-0.020	-0.055	0.154	0.085	0.165	0.130	93	0.205	
全体									
男子	-0.057	-0.179	0.160	-0.011	0.168	0.010	41	0.305	
女子	0.028	0.173	0.152	0.204	0.274	0.335	52	0.272	
侵害	家庭							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	計			
自我	-0.025	-0.035	0.020	0.048	0.140	0.080	93	0.205	
全体									
男子	-0.005	-0.119	0.111	-0.032	0.019	-0.011	41	0.305	
女子	-0.027	0.070	-0.051	0.168	0.245	0.193	52	0.272	

承認得点と自我状態の相関は、学校での自我状態において対象児童全体のNP尺度A尺度と総計（心的エネルギーの総和）に正の相関がある。男子はNP尺度とFC尺度、総和に正の相関がある。女子は、どの尺度にも相関がないといえる。家庭での自我状態との相関では、対象児童全体のFC尺度に正の相関がある。被侵害得点と自我状態の相関については、学校での自我状態の児童全体・男子の自我状態に相関が見られないが、女子にAC尺度と総計（心的エネルギーの総和）に正の相関関係が見られる。家庭での自我状態については、相関関係が見られない。

(4) 標準学力調査の正答率との相関について

表5 標準学力調査の正答率

	国語の正答率	算数の正答率	平均正答率	データーN
全体	73.9	67.6	70.8	92
男子	68.4	64.0	66.2	41
女子	78.3	70.5	74.4	51

標準学力調査の結果は、女子が男子より正答率が高く、特に国語の正答率が高い傾向にあった。

標準学力調査と自我状態との相関については、「Q-U心理検査」との相関と同様にピアソンの積率相関係数を利用し、有意水準0.05での相関を分析した。対象人数により相関関係の限界値も違うことから表の右側に限界値を示した。

① 国語・算数正答率と自我状態の相関結果

表6 国語・算数の正答率と自我状態の相関関係

学力	学校							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	0.068	0.028	0.303	-0.093	-0.112	0.061	92	0.205	
全体									
男子	0.068	-0.180	0.371	-0.020	-0.131	0.016	41	0.305	
女子	0.103	0.031	0.252	-0.207	-0.268	-0.034	51	0.272	
学力	家庭							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	-0.165	0.031	0.140	0.071	-0.218	-0.035	92	0.205	
全体									
男子	-0.196	0.146	0.181	0.038	-0.051	0.027	41	0.305	
女子	-0.195	-0.078	0.102	-0.007	-0.351	-0.150	51	0.272	

国語・算数の正答率と学校における全体のA尺度・男子のA尺度には相関関係が見られる。家庭でのA尺度との相関は男女ともみられないが全体と女子のAC尺度に負の相関が見られる。

② 国語と自我状態の相関について

表7 国語の正答率と自我状態の相関関係

国語	学校							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	0.034	0.093	0.279	-0.031	-0.007	0.123	92	0.205	
全体									
男子	0.069	-0.172	0.345	0.069	-0.078	0.053	41	0.305	
女子	0.041	0.124	0.232	-0.187	-0.151	0.024	51	0.272	
国語	家庭							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	-0.109	0.019	0.152	0.130	-0.194	0.007	92	0.205	
全体									
男子	-0.179	0.097	0.178	0.107	-0.094	0.023	41	0.305	
女子	-0.107	-0.061	0.126	0.019	-0.279	-0.071	51	0.272	

国語と学校でのA尺度の間に、全体と男子の間では相関関係がある。家庭でのA尺度は男女とも相関が見られないが、女子のAC尺度と負の相関が見られる。

表8 国語の関心・意欲・態度と自我状態の相関関係

自我	学校							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
全体	0.002	0.199	0.293	-0.127	0.083	0.158	92	0.205	
男子	0.024	0.005	0.285	0.053	-0.001	0.106	41	0.305	
女子	0.012	0.220	0.307	-0.338	0.003	0.083	51	0.272	
自我	家庭							データーN	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
全体	0.023	0.088	0.176	0.135	-0.137	0.093	92	0.205	
男子	0.018	0.006	0.046	0.131	-0.116	0.023	41	0.305	
女子	-0.011	0.167	0.263	0.037	-0.144	0.127	51	0.272	

国語の関心・意欲・態度と学校でのA尺度の間には全体と女子に相関が見られる。また、女子の学校でのFC尺度と負の相関が見られる。家庭での相関はすべて見られない。

話す・聞く能力、書く能力については学校・家庭の全ての自我状態と相関が見られない。

表9 話す・聞く能力と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.054	0.042	0.183	-0.106	-0.079	0.000	92	0.205
男子	-0.032	-0.059	0.180	-0.052	-0.126	-0.030	41	0.305
女子	-0.065	0.072	0.181	-0.174	-0.107	-0.029	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.028	0.069	0.098	0.084	-0.091	0.044	92	0.205
男子	0.009	0.045	0.025	0.018	-0.115	-0.003	41	0.305
女子	-0.083	0.092	0.146	0.102	-0.064	0.078	51	0.272

表10 書く能力と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.054	0.042	0.183	-0.106	-0.079	0.000	92	0.205
男子	-0.032	-0.059	0.180	-0.052	-0.126	-0.030	41	0.305
女子	-0.065	0.072	0.181	-0.174	-0.107	-0.029	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.028	0.069	0.098	0.084	-0.091	0.044	92	0.205
男子	0.009	0.045	0.025	0.018	-0.115	-0.003	41	0.305
女子	-0.083	0.092	0.146	0.102	-0.064	0.078	51	0.272

表11 読む能力と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.090	0.074	0.015	0.011	-0.018	0.005	92	0.205
男子	-0.128	-0.174	0.018	0.124	-0.161	-0.104	41	0.305
女子	-0.017	0.075	-0.012	-0.180	-0.115	-0.092	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.048	-0.127	0.012	-0.005	-0.253	-0.121	92	0.205
男子	-0.203	-0.097	-0.052	-0.086	-0.202	-0.182	41	0.305
女子	0.075	-0.190	0.046	-0.099	-0.317	-0.136	51	0.272

読む能力と家庭の全体と女子A C尺度に負の相関が見られる。

表12 知識・理解・技能と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	0.123	0.038	0.324	-0.003	-0.086	0.124	92	0.205
男子	0.179	-0.152	0.411	-0.060	-0.003	0.093	41	0.305
女子	0.091	0.117	0.249	0.027	-0.263	0.081	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.172	0.054	0.152	0.095	-0.140	0.003	92	0.205
男子	-0.171	0.190	0.268	0.146	0.038	0.122	41	0.305
女子	-0.208	-0.076	0.057	-0.013	-0.280	-0.153	51	0.272

国語の知識・理解・技能と学校での男子のA尺度は正の相関、家庭での女子A C尺度に負の相関が見られる。

③ 算数と自我状態の相関について

表13 算数の正答率と自我状態の相関関係

算数	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	0.0843	-0.026	0.2746	-0.126	-0.175	0.0045	92	0.205
男子	0.0553	-0.153	0.3209	-0.084	-0.147	-0.016	41	0.305
女子	0.1334	-0.039	0.2335	-0.195	-0.317	-0.072	51	0.272
算数	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.183	0.0351	0.1097	0.0145	-0.203	-0.062	92	0.205
男子	-0.172	0.156	0.1488	-0.021	-0.008	0.0249	41	0.305
女子	-0.231	-0.079	0.0721	-0.025	-0.357	-0.187	51	0.272

男子は学校でのA尺度に正の相関、女子は家庭でのA C尺度に負の相関が見られる。

表14 関心・意欲・態度と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	0.034	0.002	0.216	-0.178	-0.144	-0.024	92	0.205
男子	-0.028	-0.170	0.221	-0.167	-0.111	-0.089	41	0.305
女子	0.111	0.095	0.207	-0.211	-0.261	-0.023	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.182	-0.030	0.039	0.012	-0.291	-0.130	92	0.205
男子	-0.225	0.023	-0.009	-0.063	-0.062	-0.099	41	0.305
女子	-0.163	-0.085	0.069	0.029	-0.487	-0.191	51	0.272

算数への関心・意欲・態度は学校全体のA尺度と正の相関、家庭の全体と女子A C尺度に負の相関が見られる。

表15 数学的な考え方と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	0.116	-0.049	0.233	-0.095	-0.163	0.006	92	0.205
男子	0.029	-0.172	0.269	-0.122	-0.152	-0.058	41	0.305
女子	0.215	-0.055	0.202	-0.095	-0.272	-0.009	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.141	0.056	0.118	0.030	-0.136	-0.016	92	0.205
男子	-0.133	0.125	0.156	0.023	-0.037	0.034	41	0.305
女子	-0.179	-0.006	0.085	-0.024	-0.207	-0.092	51	0.272

数学的な考え方と学校でのA尺度に正の相関、学校での女子A C尺度に負の相関が見られる。

表16 数量や図形の技能と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	0.110	-0.040	0.280	-0.090	-0.189	0.016	92	0.205
男子	0.078	-0.131	0.369	-0.029	-0.121	0.036	41	0.305
女子	0.158	-0.067	0.205	-0.166	-0.340	-0.083	51	0.272
技能	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.153	0.028	0.117	0.038	-0.226	-0.050	92	0.205
男子	-0.160	0.167	0.155	0.021	0.001	0.047	41	0.305
女子	-0.176	-0.100	0.083	-0.002	-0.402	-0.175	51	0.272

数量や図形についての技能は学校での全体と男子A尺度に正の相関、女子の学校・家庭でのA C尺度に負の相関が見られる。

表17 知識・理解と自我状態の相関関係

自我	学校						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.001	0.022	0.276	-0.153	-0.069	0.025	92	0.205
男子	-0.040	-0.171	0.247	-0.120	-0.072	-0.060	41	0.305
女子	0.069	0.042	0.306	-0.237	-0.229	-0.016	51	0.272
自我	家庭						相関係数	
	CP	NP	A	FC	AC	総計	デューン	限界値
全体	-0.253	0.037	0.057	0.035	-0.083	-0.066	92	0.205
男子	-0.321	0.087	0.032	-0.062	0.110	-0.055	41	0.305
女子	-0.236	-0.017	0.065	0.024	-0.251	-0.131	51	0.272

数量や図形についての知識・理解は、学校での全体と女子のA尺度に正の相関が見られる。

さらに、これまでの分析結果を国語・算数の観点別評価と学校・家庭での自我状態の相関を男女別に整理し一覧すると以下のようになる。

表18 男子学力調査と自我状態相関一覧

男子	学校	家庭	男子	学校	家庭
国語全体	+A	×	算数全体	+A	×
関心・意欲・態度	×	×	関心・意欲・態度	×	×
話す・聞く能力	×	×	数学的な考え方	×	×
書く能力	×	×	数量・図形についての技能	+A	×
読む能力	×	×	知識・理解・技能	×	×
知識・理解・技能	+A	×			

*A=Aの自我状態と正の相関関係有、×=相関関係なし

表19 女子学力調査と自我状態相関一覧

女子	学校	家庭	女子	学校	家庭
国語全体	×	-AC	算数全体	-AC	-AC
関心・意欲・態度	+A,-FG	×	関心・意欲・態度	×	-AC
話す・聞く能力	×	×	数学的な考え方	×	-AC
書く能力	×	×	数量・図形についての技能	+A	-AC
読む能力	×	-AC	知識・理解・技能	+A	×
知識・理解・技能	+A	×			

*A=Aの自我状態と正の相関関係有、-AC,-FG=AC,FCの自我状態と負の相関関係有

5. 考察

(1) 小学高学年（5年・6年）のエゴグラムSHEの実施からいえること

学校における全体の傾向は、A尺度「学習や時間管理の自己コントロール力」(山本, 2014)が高く、男女別では、男子のA尺度に対して女子はNP尺度の「優しさによる人間関係力」が高い傾向にあるといえる。この傾向は、筆者が日常的に学校で観察している児童の様子と一致している。家庭においては、全体と女子のFC尺度が高く「楽しさによる人間関係力」を發揮し、男子は、NP尺度「優しさによる人間関係力」が高い傾向にある。

筆者の研究対象児童の保護者である30代から40代の父親像と母親像を見ると家庭において父親の「優しさ」、母親の「楽しさ」という同様の傾向があり、交流分析でいう親の人生態度が10歳から12歳の高学年男子・女子児童に同性の親の姿がプログラムとなって投影していることがうかがわれる。

(2) 学級生活満足度調査「Q-U心理検査」との相関について

① 承認得点と自我状態の相関から

筆者にとって、先行研究のないなかで、どのような自我状態を發揮している児童がクラスで承認を得ているのか、また侵害行為を感じているのか、興味を持って分析に取り組んだものである。結果は、男子はNP尺度とFC尺度すなわち、「優しさと楽しさ」による人間関係力のある児童が人気者として、

承認されている傾向にあった。

また、女子については、承認得点と自我状態の相関は見られなかった。

② 被侵害得点と自我状態の相関から

いじめや不登校対策として重要な要素である侵害行為認知得点と自我状態の間には、男子の場合、相関は見られない。女子の場合は学校においてAC尺度が高い「自己抑制型」と心的エネルギーの総和の高い児童、すなわち「積極的・活動的な行動」をしている児童が、侵害行為を感じている傾向にあった。侵害行為を感じているからAC尺度が高い「自己抑制型」となっている可能性もあり、いじめや不登校・不適應の早期発見対策として、AC尺度に注目して児童を見守ることは、エゴグラムSHEの有効活用の大事な視点を示唆しているといえる。

(3) 標準学力調査との相関について

標準学力調査と自我状態の相関を分析した結果、男女ともに学校でのA尺度に正の相関があることから、学力向上のため学校のA尺度を高める「試験内容の見直し」「授業に集中し話を聞く」「宿題を期限までに提出する」「計画を立てて学習する」「目標を持つ」などの観点で励ましのメッセージを与えることは有効であるといえる。女子はA尺度ばかりでなく、学校ではFC尺度の高い質問項目「授業中の私語」「持ち物・服装などへの興味」と負の相関が見られることから、この点からの適切なアドバイスが有効と考える。家庭ではAC尺度と負の相関があることから、「我慢する」「家族の顔色を気にする」など、「自己抑制」している点について、児童と保護者双方にアドバイスをすることが効果的であると考えられる。以上のように、エゴグラムSHEの有効活用として、自我状態から児童と保護者に対して、学力向上という観点からも、励ましのメッセージを送ることができるのではないかと考えている。

6. 結論と今後の課題

(1) 対象児童の自我状態の分析から

研究の前提として、対象児童93名の自我状態は、T研究所のデータと同様の傾向にある。このことか

ら、標本となる児童の自我状態の分析は、エゴグラムSHEの効果的活用を検討するための資料としては有効であるといえた。この対象集団の児童は、日ごろから「学習と諸活動」に意欲的に取り組み、教師の指導も行き届いており、日常の教師集団の児童観察と一致した。すなわち、A尺度とNP尺度が高く、「学級崩壊・いじめ・長期の不登校傾向」も見られず、個性尊重と集団の規律維持の状況は各エゴグラム平均値と一致していた。このことからエゴグラムSHEは、管理職を含め全校体制で取り組むことにより学級・学年集団の傾向を共通理解・把握するうえで、各担任を支援するツールとしての有効性を示唆しているといえる。

(2) 小学校高学年でのエゴグラムSHEは、Q-U心理検査との関連についての先行研究がないことから、両者には、なんらかの相関があるのではないかと考え分析を試みた結果、「Q-U心理検査」の承認得点・被侵害得点とエゴグラムSHEの相関から、男子は、「優しく、楽しい児童」が承認されることが分かった。また、女子は、「自己抑制力が高く、かつ行動的エネルギーのある児童」が侵害行為を感じていることが分かった。筆者は、長年、小中学校に勤務し、「Q-U心理検査」を扱ってきたが、個別指導に生かし切れなかった。その中でエゴグラムSHEは、自己分析を通じて、自己理解が深まる心理検査であり個別指導ができるという特徴がある。学級崩壊・いじめ・不適応改善に活用されている「Q-U心理検査」とエゴグラムSHEの2つの調査を組み合わせて使用し、事前に児童の自我状態の特徴を把握し個別指導することで不適応児童の早期発見と不登校予防対策にいかすことができるという可能性を見いだすことができたと考えている。

具体的には、Q-U心理検査の被侵害得点と女子のAC尺度・心的エネルギー総和に相関があることとあわせて、児童全体の傾向としてCP尺度が低いことから「CP尺度・自己主張力」を高めることが不登校・不適応対策になるとと思われる。

筆者は、この学年児童が不適応傾向を示し数日間欠席が、続いたとき、エゴグラムSHEを活用し、

学校でのCP尺度を高めるために「アイメッセージ」と「アサーティブコミュニケーションスキル」についてアドバイスを担任とともに実施し支援した。その結果、数か月で不登校・不適応傾向の改善が見られた。今後は、こうした学級・学年全体の自我状態の傾向を把握したうえで、個々の不適応・不登校対策としてエゴグラムSHEの活用をさらに進め、改善事例を多く集めながら、エゴグラムSHEの有効性を示すことが課題である。

(3) エゴグラムSHEを開発した、山本(2014)は、A尺度を「学習・時間のセルフコントロール力」と位置づけている。このことから、エゴグラムSHEと標準学力調査の相関関係の分析に取り組んだ。その結果、児童全体では、学校でのA尺度を伸ばす指導をすることで学力向上につなげることができるのではないかとということ。さらに、女子は、学校でのFC尺度と家庭でのAC尺度の改善が学力向上につながるのではないかとと思われる。このことは、教育相談時に、対象児童はもちろん、親にたいしても「家庭での養育姿勢」などの改善メッセージを送ることが効果的であるといえるのではないかと考える。なお、学力向上対策として、標準学力調査の結果と女子の「家庭でのAC尺度」の間に、負の相関にある理由について、さらに詳細な分析をすすめその要因を明らかにしていくことが今後の課題である。

文献

- 河村茂雄. (2006). 学級づくりのためのQ-U入門. 図書文化.
- TA学校教育心の開発研究所. (2015). 自尊感情を育てる「エゴグラムSHE」活用ガイド. 日本交流分析協会.
- 山本昭一. (2014). 日本交流分析協会東北支部特別講座資料. 日本交流分析協会.